

ショートショートを書いてみよう！

<ショートショートとは・・・>

簡単にいうと「短くて不思議な物語」、

もっというと「アイデアと、それを活かした印象的な結末のある物語」です。

とは、いうものの……

短いおはなしというけど、
そもそも何を書いたらいいかわかんないね……

書き方とかあるのかな……？

今回のコンクールの審査委員長、田丸雅智先生の
著作「たった40分で誰でも必ず小説が書ける
超ショートショート講座」をもとに
気軽にショートショートを書くコツを学んでみよう！



①身近なところから名詞を探して連想できるものを書いてみよう！

例えば「スマホ」で

最初はここから！

思いついた左の言葉を
適当に組み合わせて
言葉を3つくらい作ってみる

名詞から思いつくこと
便利
いつでも見てしまう
電話
待ち受け画面
手に収まらない
カバーが選べる
アンドロイド
文明の発達
ないと困る
高い

名詞を探して書いてみよう	
扇子	カード
しおり	スマホ
PC	リュック
ノート	道路
手紙	カニ
机	きなこ
目薬	時報
指輪	お茶
磁石	まんじゅう
はにわ	アメ

カバーが選べるカニ

アンドロイドまんじゅう

ないと困るきなこ

この中から自分が気になる
言葉を1つ選びましょう

② 不思議な言葉から想像を広げよう

選んだ言葉→

アンドロイドまんじゅう

それはどんなモノ？説明してみましょう。

AI(人工知能)を搭載したまんじゅう。話しかけると答えてくれる。食べることもできる。

それは、どこでどんな時にどんないいことがありますか？

自宅や購入先でSiriやGoogleみたいに話しかけたいときに話しかけると答えてもらえる。まんじゅうとしてもおいしいので食べられる。

それは、どこでどんな時にどんな悪いこと、または左で書いたこと以外のどんなことがありますか？

人気になって安価で大量生産ができる。AIを搭載しているのでまんじゅう自身が意思を持ってしまう。



②で書いたものをまとめてみよう！

題名： つかまらたくないまんじゅう

近未来で、AI技術が発達して商品も手軽に話しかけると会話してくれるアンドロイドみたいになった。一番人気は「まんじゅう」でなんといっても飽きたり不具合があればすぐに食べてしまえばいい。安価で大量生産もできて爆発的に売れたが、中には意思をもっているまんじゅうがいて、逃走を図ろうとしていた。

③物語の筋を考えよう！

AI(人工知能)を搭載した食品が流行していた。まんじゅうはその中でも人気だった。

それ



から？

特に「箱根まんじゅう」が人気で、売り物の中に意思をもったまんじゅうがいた。

それ



から？

そのまんじゅうは消費されるだけ消費される生き方に嫌気がさし、逃亡した。

それ  から？

せっかく箱根生まれなのだから、大涌谷に遊びに行こうと思う。

それ  から？

下り坂は転がりながら、上り坂は車に飛びついて移動をした。

それ  から？

転がったりしているうちにまんじゅうは真っ黒になってしまった。

それ



から？

大涌谷につくと、人はまんじゅうを食べながら話しかけていた。

それ



から？

つかまるまいと思ったまんじゅうは近くにあった温泉たまごの湯につかって溶けてしまった。

それ



から？

この話はここで終わりですが、自分が納得するまで筋を書いていきます。

④物語の筋をもとに文章にしてみよう！

③でつくった物語の筋を言葉でつないでみよう。
すぐに文章にするのが難しかったら

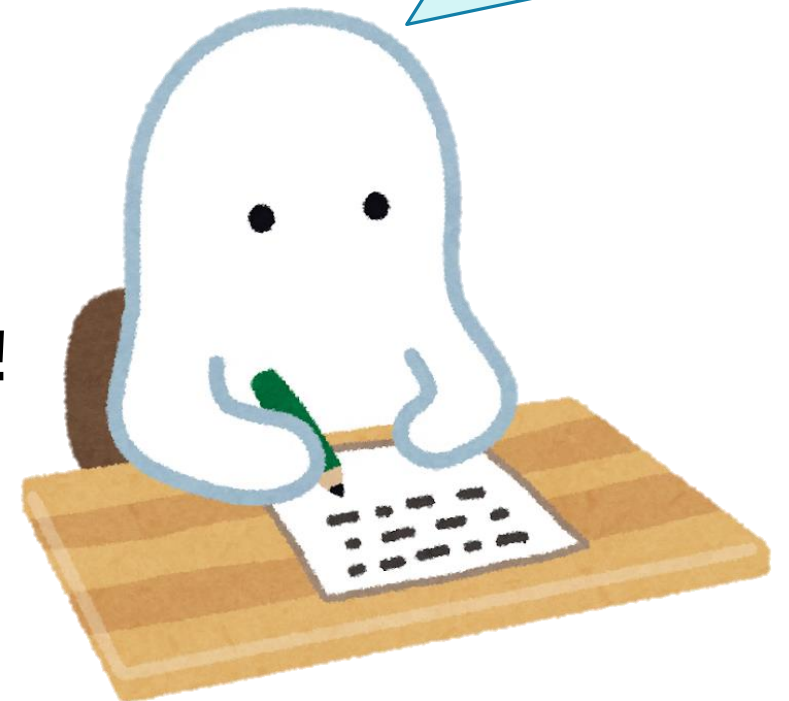
③をどんどんふくらませてみよう。
(もっと細かく物語の筋を書いてみる)

するとだんだん

主人公や周りの登場人物たちが動き始めるよ！

完成したらぜひ近くの図書館や文学館、
または学校の先生まで持ってきてね！

これをもとに次の
作品を書いたよ！



「つかまりたくないまんじゅう」1/4

ある日、箱根のお店に並んでいた中にひとつ	その中でも箱根まんじゅうが有名だった。	じて安価で大量の生産が可能になった。	ばいばい。AIまんじゅうシリーズは人気に乗	らしばらくそのまま利用して飽きたら食べれ	るし、賞味期限も長いものは一ヶ月も保つか	じゅうなんかは特に小さくて持ち運びもでき	このようにしてAI食品は利用されている。まん	っありがとう。じゃあ、いただくなりね。	最低気温は摂氏15度です。	「今日の天気は晴れ。最高気温は摂氏25度。	天気は？」	「おまんじゅうさん、こんにちは。今日の	食用として消化することもできた。	えたそれらは会話を楽しむこともできるし、	できるようになった。音声認識サービスを備	術は発達し、食品にもAIを搭載することが	今より少し先の未来、AI（人工知能）技	ちやうおうとしこ	っかまりたくないまんじゅう
----------------------	---------------------	--------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	---------------------	---------------	-----------------------	-------	---------------------	------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------	---------------

「つかまりたくないまんじゅう」2/4

おかしなまんじゅうが混ざっていて、こんな
 ことを吐いた。
 「つまらない会話をさせられた挙句、最後に
 は食べらぬでしまうなんぞんなまんじゅう
 人になんてまっぴらごめんだ」
 自我の芽生えたそのまんじゅうは、突然入
 ったいた箱から転がり落ち、店の外へ出た。
 「誰にも捕まらずに自分のやりたいことをや
 って腐って一生涯を終えたいいんだ。そうだ、せ
 かく箱根で生まんだから、大涌谷でも
 見に行くか」
 そう言って、まんじゅうは大涌谷を目指し
 てひたすらに転がり続けた。下り坂は乗々だ
 ったが、上り坂は自分で登山しない。途中で
 車に飛びついて坂を越えた。途中、車の風を
 受けて眺めた景色は絶景で、普通に売らぬて
 は音声認識のおもちゃにさして食べらぬてし
 まう生き方よりがっとな楽しい。そう思った。
 長い距離転がり続けたまんじゅうはいっしか
 真っ黒になつていた。

「つかまりたくないまんじゅう」4/4

はっかないだろう。
逃げることには必死になりすぎたまんじゅう
は、自分の体が何でできているのかすっかり
忘れたしまっていた。どぼんとつかったそ
の温泉の湯加減はとも心地よく、体がじん
わりと溶けていく感覚に包まれているまま息
を失った。

ショートショートコンクールの規格は、
400字詰め原稿用紙1～5枚分です。
このショートショートは約1300字に
なりました。